

第 5 学年 体育科 学習指導案

本時の主張

擬音語・擬態語を用いることによって、子どもが表したいイメージを共有しやすくなり、表現運動に意欲的に取り組むようになる。

1 単元名 表現運動 「稲の生長と天気」

2 単元の目標

- 全身を使って動いたり動きを工夫したりしながら、自分の表したいことを身体表現することができる。(技能)
- リズムに乗って楽しく踊ろうとしたり、友達の動きのよい所を見つけ発表したりしようとする。(関心・意欲・態度)
- 「稲の生長と天気」の表したい感じを表現するように、「はじめ—なか—おわり」のまとまりを意識して踊ることができる。(思考・判断)

3 単元の評価規準

運動の技能	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断
・表したい感じの主な特徴をとらえ、全身を使って表現したり動きを工夫したりして、音や音楽に合わせて踊っている。	・表現運動に進んで楽しく取り組もうとしている。 互いのよさを認め合い、協力して練習したり見せ合いをしたりしようとしている。	・表したい内容にふさわしい動きを擬音語・擬態語を利用して表したり、ひとまとまりの動きにしったりして考えている。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と児童

明るく素直な子どもが多く、全体的に落ち着いた雰囲気、男女の仲も比較的よい。

運動好きな子どもは多いが、運動を得意と感じている子どもは3分の1と少ない。「表現」に対するイメージは「話す」「描く」などで、身体表現に対するイメージをもっている子どもはなかった。また、子どもの中には与えられた課題には進んで取り組もうとするが、自分でめあてをもって活動することは苦手な子もいる。周囲の視線を気にして、集団や友だちとのかかわりの中で自分の表したいイメージを表現することに抵抗があるように感じる。自分の表したいことを「書く・話す」以外の身体表現で表現する力や友達の表したいことや工夫していることを感じ取る力は、表現運動領域で身に付けるべき大事な力だと考える。

そこで、子どもの身近にある「言葉」を介して、動きを作ったり友だちと考えたりするなどの活動を通じて、体を動かす心地よさや、友だちと一緒に活動する楽しさを味わわせたいと考えた。

(2) 指導の構想

本単元では、全6時間を通して子どもに身体表現を経験させていく。表現運動については、毎年、全校子どもによる「YOSAKOIソーラン」を全校ダンスとして経験し、軽快な音楽に乗って踊る運動には親しみがある。しかし、「表現」としての運動にはあまり親しみがない。そこで、

毎時間、様々な表現の種類に触れていく取り組み方で、子どもに身体表現の存在を経験させていきたい。

手立てとして、次の三点を講じる。

① **子どもの動きを擬音語・擬態語（オノマトペ）で表現させる。**

子どもには、体全体を使った大きな動きを期待したい。そこで、初めて「表現」を行ったり、グループで動きを考えたりする際にオノマトペを使う。

② **発表会の題材を「稲の生長と天気」として統一する。**

子どもは、春から田植え、かかし作りを経験してきている。子どもにとって「米作り」は印象的な活動の一つとなっている。秋には、稲刈りを行う予定である。そこで、子どもの印象の強く残ったこの経験を「表現」運動の題材として設定した。共通の題材を設定することで、全員が同じ動きになる恐れもあるが、「表現」運動の経験の少ない子どもにとって、見る側には表現内容を容易に想像することができ、表現する側には表現する抵抗感を取り除くことができるだろうと考えた。

③ **「全身を使って動くーなりきって動くー速さを意識して動くー動きをスムーズにつなぐ」という4課題を設定する。**

初めて、身体表現を経験する子どもに経験させたい技能として、上記4点を設定した。

- ・「全身を使って動く」とときには、鏡の動きとして、まねや逆に動くおもしろさを通して全身を使う楽しさを経験させたい。
- ・「なりきって動く」とときには、新聞紙になりきって大きく伸びたり小さくなったりしながらなりきる楽しさを味わわせたい。
- ・「速さを変えて動く」とときには、タンバリンのリズムに合わせて、走る動作を基本としながら速く走ったりゆっくり走ったり止まったりして、同じ動きでも表現する速さによって変わるイメージをとらえさせたい。
- ・「動きをスムーズにつなぐ」とときには、即興的に踊っていた今までの動きを組み合わせることにより、つなぐおもしろさを感じさせたい。

5 単元の指導計画（全6時間）

時間配分	○本時の学習のねらい・主な学習活動	・教師の支援・留意点 ◇主な評価
導入 (1時間)	○ リズムに乗って楽しく踊る。 ・ 学習の進め方を知る。 ・ 体ほぐしの運動を行う。 ・ リズムダンス「まるまるもりもり」を踊る。 ・ 学習カードの記入を行う。	・ 子ども自身が見通しをもって活動できるようにする。 ・ 教師が子どもと一緒に踊ることで、子どもに安心感を与える。動きが大きく楽しんでいる子どもをどんどん紹介する。 ◇リズムに乗って楽しく踊ろうとする。【関】
展開 (全4時間)	〈4時間の学習の主な流れ〉 ○ 全体で押さえない動きを即興的に表現する。 ・ 教師の提示した課題を見て、自分なりの動作化を行う。 ○ 作品作りを協力し合い、進んで発表する。 ○ グループでよかった動きを確認する。 〈各時間の学習課題〉	・ 子どもが表現しやすいような課題を提示する。 ・ 動きが小さい子どもには、教師や友達のまねをしてみることを伝える。 ・ 動きのよいグループやリーダーには、積極的に声を掛ける。

<p>展開①</p>	<p>展開 1 時間目</p> <p>○ 鏡になって全身を使って動こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が納得のいく動きやまねしたい友だちの動きなどをグループの中で紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が鏡になって、教師、友達 の動きをまねして動く。 <p>◇全身で表現することができる。 【技】</p>
<p>展開②</p>	<p>展開 2 時間目</p> <p>○ なりきって動こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を活用し、ねじったり、回ったりと様々な動きに挑戦する。 ・納得のいく動きや、まねしたい友だちの動きなどをグループの中で紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を丸めたり、ねじったり、 転がしたりしてもよいことを伝える。 ・意外な動きや、不安定な動きが おもしろいことを知らせる。 <p>◇教師のアドバイスや友達の動き を手掛かりに、新聞紙になりき った動きを工夫している【技】。</p>
<p>展開③ 本時</p>	<p>展開 3 時間目</p> <p>○ 速さを意識しながら動こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンバリンのリズムに合わせて、「走る～止まる」を意識する。 ・グループごとに表現し合い、表現の仕方によかった所を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉での指示を出しやすく、ま たリズムをとりやすいようにチ ューナブルタンバリンを使用す る。 ・すばやく、ゆっくり、急に止ま るなどの変化を意識させる。 <p>◇走る・止まるなどのメリハリ のある動き方の特徴をとらえ、表 現することができる。【技】</p>
<p>展開④</p>	<p>展開 4 時間目</p> <p>○ これまでの動きをスムーズにつなごう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりを意識しながら発表会練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな表現がよかったかを話し 合い、どの動きをつなげるのか を話し合い練習する。 <p>◇グループで互いに協力して練習 したり、交流や発表に進んで取 り組んだりしようとする。【態】</p>
<p>まとめ (1 時間)</p>	<p>○ 「はじめ - なか - おわり」を意識して踊る発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、表したい表現についてグループで「はじめ - なか - おわり」について話し合い、練習を行う。 ・発表会の順番や約束を確認する。 ・グループごとに発表会を行う。 	<p>◇表したい部分を意識して踊ることが できる。【技】</p>

6 本時の学習（指導全 6 時間、本時 4 時間目）

(1) 本時のねらい

- リズムに乗って楽しく踊ろうとする。
- 教師のアドバイスや友達の動きを手掛かりに、走る・止まるなどの動きの速さの特徴をとらえ、表現することができる。

(2) 本時の構想

- ① 親しみのあるリズムダンスを導入で用い、身体表現をしやすくする。
- ② 速さを意識した動きを用いられるように、タンバリンを使用し「音に合わせて動く」ようにさせる。
始めに「走る」表現を体験させ、その後作品につながる動きを行わせる。オノマトペやタンバリンの音の強弱・リズムの変化によって子どもが動きやすいようにする。
- ③ 表現する人数を変化させて、動きのおもしろさを感じられるようにする。
- ④ 速さを意識した動きを取り入れて作品作りをさせる。

(3) 本時の展開と評価

時間 (分)	学習内容・活動	主な教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点と 評価 (◇)
5	1 ウォーミングアップ (リズムダンス)	T 「まるまるもりもりをおどりましょう。」	・集合、あいさつ後実施。
2	2 課題を確認する。	○ 速さを意識しながら動こう。	・「速さを意識した動き」と「音に合わせて」ということを押さえておく。 (タンバリンを使用)
5	3 即興的な動きをする ・「走る」動きを基本に タンバリンの音に合わせて、早く・遅く・止まるや早送り・巻き戻しなどの動きを行う。	T 「今日は、音に合わせて走るよ。」 C 「どこ走ってもいいの。」 C 「どんな走り方でもいいの。」 T 「タンバリンと先生の声をよく聞いて動いてね。よーい、走る走る走る……止まる。」 「スローモーションで、走る走る……止まる。巻き戻し。早送り。2倍速 10倍速。止まる。」	
8	4 作品につながる動きをする。 ・作品作りの「なか」の部分の元を作る。 ・言葉に合わせて、表現したいことを即興的に動いていく。	T 「今日の作品作りの表現は、稲の生長の様子です。稲になって風に吹かれたり、雨に打たれたりしてみましよう。また、風や雨にもなってみましよう」 C 「どうやろう。」 C 「動いていいのかな。」 T 「種籾 ゆらゆらゆらゆら 芽が出たよ ぐんぐんぐんぐん 風が吹いてきた そよそよそよそよ 強い風だびゅーびゅーびゅーびゅー 雨だ！ ぽつぽつ気持ちがいいなあ まだ 雨だ！ ざーざー 降りすぎ。」	・本時の表現につなげられる動きを選んで行う。 ・擬音語・擬態語を用いて、身体表現しやすいように配慮する。
15	5 グループごとに動きを作る。 ・作品作りのグループに	T 「よかったと思う動きを使って、作品作りの続きをしましよう。」	・友達の動きを見たり、カードに記入したりしながら動きを工夫させ

	分かれ、それぞれ自分の踊りを紹介し合う。		る。
5	6 ペアグループで見せ合う。 ・今日できた動きをペアグループで見せ合う。	T 「ペアグループで見てください。」 C 「あの動きおもしろい。」 C 「うちとちがうね。」 C 「走った方がいいんじゃない。」	◇速さを意識した動きが出来たか。【観察】
5	7 学習を振り返り、次時を確認する。	T 「今日の振り返りをしましょう。」 C 「今日の動きおもしろかったね。」 C 「少し、スピードを変えてみようか。」	・カードへ記入させる。 ◇楽しく踊ることが出来たか。【カード】